

黒岩小学校景観学習発表会

2009年12月11日 10:40~12:15

会場：黒岩小学校ホール

1. 開会

小保内校長先生

本日は本当に本校の景観学習にたくさんおいでいただき本当にありがとうございます。おかげさまで北原先生、北上市の都市計画課、県の環境整備部の方々から大変お世話になりまして、順調に景観学習が進む事が出来ました。今日は発表会になるわけですが、本当に実り多い発表になればいいなと思います。

そして子供達が黒岩の地域の良さを知り、地域を大切にしてくる気持ちを育ててくれればいいなと思います。本当に今日はよろしく願いいたします。

2. みんなに伝えたい景観の発表

(司会)

ありがとうございました。今日はどんな流れになっているかご説明させていただきます。

先日みんなが北原先生と一緒に黒岩のまちをカメラを持って歩いてきました。いい物、悪い物、気になる物と様々な写真を撮ってきて、今日はその中で一人平均 50 枚ぐらい撮ったその中から厳選された3枚を選んでもらって、それを皆さんに紹介していただくという事を最初にやりたいと思います。



その後、北原先生の方でも 600 枚近い写真を弘前に持って帰っていただきまして延々と見ていただきましたので、北原先生が気付いた黒岩の様々な景観や皆さんが撮った写真についてのご説明とそれをふまえての景観についてのお話を

していただきたいと思います。

では早速、最初5年生の発表からいきたいと思います。

<5年生の発表>



これは好きな景観で、題名は「かくれている金魚」です。金魚が寒いから葉っぱに隠れているのがかわいいです。1匹ではなく2匹以上いればもっとかわいいと思います。



これは気になる景観で、題名は「さびている小屋」です。なんかさびているし、横が長いから気になる景観です。

これはこわい景観で、題名は「古びたかんばん」です。交通安全の看板だけどさびれているから怖い感じがします。古い看板は壊して、新しい看板作ればいいと思います。



（北原先生からのコメント）

かくれている金魚は偶然見つけたの？自分で探していたの？

交流センターにあるとわかっていたので撮りました。

（北原先生からのコメント）

名前わかんなかったんだけど面白いと思って。3番目の古びた看板は本当に怖いと思います。こういう怖いと思う気持ちを言うことが大事で、言っていると「そうだなあ」とお父さんお母さんたちも考えてくれます。

■



この写真はもりたくさんな景観です。題名は「たくさん収穫！」です。歩いている時に、この野菜を見てびっくりしました。全部の野菜を食べるのに何日かかるのかなと思いました。他の人にも食べてもらう為に産直に置いてもらったり、芸能まつりに出してたくさんの人に知ってもらえればいいと思います。



この写真は不思議な景観です。題名は「寒そうなキウイ」です。キウイは南の国のイメージがあったので、なんで寒い所で育てているんだろうと思ったからです。隠れているところではなくて、もっと目立つようにすればいいと思います。



この写真は好きな景観です。題名は「スッキリ」です。私がこの写真を選んだ理由は、雲が一つもない空が好きだからです。もう一つの理由は、明るい色が好きだからです。この写真を見ると、スッキリした気分になります。

（北原先生からのコメント）

感想なんですけど、真悠さんのやつはタイトルがすごくいい、とてもいいと思います。

最初見た時に「盛りたくさんな景観」というのは初めて聞いた名前でしたけど、盛りたくさんな景観とってくれたおかげで、あそこを見たときに、今説明してくれたみたいに、お祭りの時、芸能まつりの時に食べてもらったりとか、収穫して出来たものをみんな楽しみにしている、そんなわくわくするような気持ちを「盛りたくさんな景観」といったのはすごくいいと思います。

二つ目の寒そうなキウイ、これ鳥肌が立ったみ

たいな、良くつけたなと思って。これ写真も大事なんです、写真を言葉にまとめる時の感じ方というのがすごく素直で、とても言っている事がちゃんとわかるから、とてもいいタイトルを付けてくれたなと感心しました。

■



これはかわいそうな景観です。題は「蔵」です。右の辺りがヒビとかが入っていて、修理してあげたいと思いました。



次は気になる景観で、題は「草にかこまれていた機械」です。機械が草のツルに絡まっていて、どうしてこうなってしまったのか気になりました。ツルをはずして機械を使えるようにしたらいいと思います。

これはよい景観で、題は「竹」です。竹と木の後ろにカワラの屋根があるのが、良い景観だと思いました。これで終わります。



（北原先生からのコメント）

僕は湧哉君のやつの中で一番印象に残っているのは、かわいそうな景観です。

好きとか嫌いとか、いいとか悪いとか、かわいそうな景観というのはまるでこの建物が生きているみたいな感じで、使われているかどうかはわかりませんが、右側の方がヒビが入っていて痛々しいと、これが汚いとか嫌だとかではなくかわいそうだと、これを何とかしなきゃという気持ちが君達にはあるんだと思います。

かわいそうという言葉は、今まで景観教室をやってきた中で、初めてで、ありそうな言葉なんだけど、かわいそうとよく言うんだけど、逆に何とかしてあげなきゃ気持ちがあるあったかい言葉で、かわいそうな景観というのを他の学校でも使おうと思います。

かわいそうというだけで、よそから見てかわいそうだけでなく、何とかしなきゃという気持ちがあるのだと思います。好きな言葉です。ありがとうございました。

■



これは好きな景観で、題名は「木の輝き」です。僕はこの木の葉の間に太陽の光があたってきれに見えるのが好きだと思います。



これは気になる景観で、題名は「ふしぎなゴミ箱」です。僕は、これはゴミ箱なのか、なぜ石なのか、気になりました。



これは直したい景観で、題名は「直したいでんしんばしら」です。僕はこの電信柱がいらないと思います。この電信柱は後ろのごみ箱の近くに移動すればもっときれいに見えると思います。これで終わります。

（北原先生からのコメント）

僕は尚君の発表の中では、一番最後の写真なんですけども、さっきはかわいそうな景観、何とかしたいという、今のこれは、少しそれよりも一歩踏み入れて「直したい景観」と提案してくれました。

もちろん、あなたの言ったとおり、簡単に動かないけれど、直したいなあという気持ちがあるというんな人が工夫して、木で隠すとか、こういう田んぼとか畑のどこでは隠すところもなかなかないんですが。これをパッと見た時に後ろに山が

見えてあそこに住宅地が見えて、ホントはいい写真になるはずなのに。

これ上手だなと思ったのが、わざと電信柱がはっきり見える様に嫌なアングルにしたのがとてもいい写真だと思います。

撮らないようにするなら右の方に向ければ写らないんだけど、電信柱がバアッてきて、線が見えて、誰が見ても主人公が電信柱だってわかる写真なんで、丁度うまく表現できているいい写真だと思います。



これは好きな景観です。題名は「真っ赤な太陽」です。木と木の間に太陽が輝いて周りに薄い赤があってきれいに見えたからです。この写真は特別きれいなので、この木は切り倒さないで、なるべく守って欲しいと思います。



これはよい景観で、題名は「輝いている水」です。田んぼの中に水たまりがあって太陽の光に反射してきれいに見えたからです。周りに水があったらもっと輝いているところが大きく見えたと思います。



これはよい景観で、題名は「木とかれ葉」です。周りにたくさんのかれ葉があって、真ん中に切り倒された木があるのでその風景がよいと思います。真ん中にある木にかれ葉があればいいと思います。これで僕の発表を終わります。

（北原先生からのコメント）

今の発表を聞いてふたつあります。

ひとつは、一枚目の写真も二枚目の写真も光とか輝いている写真を選んで、そういう写真を撮って、もちろんみんなも撮ったかもしれないけども、一枚目の写真は600枚ぐらいの写真を見た中ですごくいいと思いました。

僕ら子供のころに太陽の方を向いてカメラを撮っちゃいけないと言われて、目が潰れるとかもあったし、それから逆光と言って太陽を向くと暗くなって写らないというのもあったし。こういう木の後ろに太陽が見え隠れしていて、ピューって光が入ってくるみたいな写真をこういう角度で撮って、こういう木を守らなくてはいけないなという気持ちがすごく大事な事だと思います。

木がなければ多分この写真は撮れなかったでしょう。太陽だけ撮ってもつまらない。木の間から見える太陽を撮りたかったんだから、そういう感じだと思います。

3枚目はおもしろい。これをいい景観だという話をした。パッと見た時には木の切り株があって、周りにかれ葉が落ちてから、美しい景観とは普通思わないかもしれないけど、あなたはこれを真ん中に木の切り株があって周りにかれ葉が落ちているのを一つの構図にしてデザインみたいにしてなんとなくアートとして見てこれを自分は好きだと言ったというのが意外でおもしろかったです。

一瞬パッと見た時に好きな景観と言われるまではなんだろう？と。木と周りに乱雑に落ちている葉っぱだな。これ、もう少しきれいに落ち葉拾ったらいいのにといい写真なのかなと考えるんだけど。

こういうものをアートみたいにして見ていいなと思った感性がおもしろいなと思ったので、そういうものを大事にしてほしいと思いました。ありがとうございました。

■



これは好きな景観で、名前は「いっせ」です。訳はいせどが好きだからです。



これはきれいな景観で、題は「ぶきみなくら」です。ぶきみなくらだから、だれかいそうだから、選びました。

これは悪い景観で、「記念写真」です。景観なのに記念撮影をしているから、こういうのを見つけました。これで終わります。



（北原先生からのコメント）

颯太君は今回の景観教室で最も写真を撮った人です。僕は今までいろんな学校へ行って景観教室をやってきましたけど、その中でも一番多く撮りました。彼の撮った写真を弘前で見た時に途中で眠くなりました。それ位多いので困りました。

おもしろいのはこの人はとにかく気が付いたものはぼんぼんぼんぼん撮るので、一枚一枚一つの画面を通して、あるいは挙句の果てに自分達まで撮るので、自分の写真も撮らせているのですごくと思いました。

彼が「あつ、あれ。」「あつ、これ。」「あつ、それ。」と思って撮る感覚が大事だなと思います。みんなも「あ、いせどだ。」って見ているんですけど、撮るまでもないだろうと思って、撮らない人が多いんだけど。昔はねフィルムのカメラだったから、そんなに撮らないでちょうだいと言いたいところですけど、今はデジタルカメラで何枚撮ってもいいんで、気が付いたら撮っておこうと、後から見てみれば、ああ、そうだなあと思うんで、いっぱい撮る事も大事だし、ほんのちょっと気付く事も大事だと思います。

2枚目の写真で、さっきはかわいそうな景観でありましたが、今度、彼はぶきみな景観だと言いました。それが景観です。

同じ蔵を見て。後で僕の方でもみんなの蔵を全部集めて見せますけど、撮り方とか、気持ちによって、見方も違ってくるし、実は彼の撮り方は唯一、側面、正面と全体を撮っていて、全体を見てなんとなく不気感を出している。

さっきの写真では左が見えないで、正面から撮っている人はいっぱいいました。そして、何となくかわいそうだなあと。そう、これを見たら、人の顔みたいで、かわいそうだなあと思う。ところ

が彼の写真を見ると、全体のやつが出てきた時に、あっちに入口あるんだけど、あそこ誰かいるのかなみたいなの、さっきの表から見ているよりも、こっちの全体を見た時に雰囲気荒れた感じを見ていると不気味な景観というのは、持っている人には悪いかもしれませんが、感じたのはいいかもしれません。



だから、写真の撮り方一つで、全体を見ようとすると、この写真のいいのが、この倉庫の向こう側に林があって森があって家があるという全体の、これがどんなところにあるかということを押さえている。

結構彼はそういう事を抑える見方をする人なんだなあというのがこの写真の印象です。いずれにしても、彼は撮影を一番したという事では褒めてあげたいと思う気持ちと同時に、君のせいで僕は眠れなかったんだという気持ちもあります。

でも、今日会いたかったんですけどね、会えなかったのが残念です。よろしくお伝え下さい。

＜6年生の発表＞



一枚目はびっくりした景観で、題は「UFO！！」です。畑の中に未確認飛行物体が墜落してきたかと思ってびっくりしました。よく見るとボウルでした。持ち主が誰なのか気になりました。



次はきれいな景観で、題は「くどいかんばん」です。同じ看板を2個も建てるなんて、くどいと思いました。僕はこの人の顔が嫌いなので、嫌いな景観です。なくしても平気です。



次は好きな景観で、「とりの応えん団」です。野球やサッカーをしている時に観客席から鳥が

応援しているみたいで、僕は好きです。もっと増やして、色をつけてもらいたいです。

（北原先生からのコメント）

「とりの応えん団」、これは何なの？誰が作ったの？記念に作ったやつ？僕は一輝君のネーミングセンスがピカイチだと思いました。変でおもしろいです。

まず、最初の「UFO！！」。言われたらそうだけでも、UFOと言いながらも、でも、誰が落としたんだろうとか誰が捨てたんだろうという気持ちを軟らかい表現で、UFOと言ったのは、優しくて厳しい言葉です。

次の「くどいかんばん」、このネーミングは最高です。今、先生は北上市の景観にも関わっているのですが、看板やポスターをどう皆で考えていくかというときに、美しいとか調和しているという言い方はあるけれど、君たちの「くどい」という言い方はおもしろいです。

3番目の「とりの応えん団」というのはすごくいいです。景観というのは、景色を見て自分で思ったことを言葉に表すと気持ちが出てくるのですが、あなたのネーミングの付け方は、すごく人柄が出ていていいと思います。

3枚ともいい写真だと思います。



これは「謎のスター」です。なんで同級生の作った物が、ゴミ置場の所の看板にあるんだろうと思いました。作った人が取りに来るといいと思います。

これは「秋の印」です。すごくいい写真だと思いますが、ビニールハウスをなくせばもっといい

写真になると思います。



これは「道のおくに寺」です。きれいな長い道の奥にきれいな色の正洞寺があったので、好きな景観にしました。



(北原先生からのコメント)

おもしろいなあと思ったのが、1枚目がすごくミクロな小さいもの、2枚目が遠くの山を撮りたいけれど前のビニールハウスがなければもっといいのに、という写真でした。タイトルがいいですね。「秋の印」です。どこがどういう風に「秋の印」か説明してくれる？

山の色が黄色や赤っぽくなってきているからです。

(北原先生からのコメント)

なるほど。そういうのを見て「秋の印」としたんだね。

それから最後の写真ですが、このお寺のこの角度はとても良くて、あなたはすぐそばの小さいものを見る目と遠くを見る目と中間を見る目、3つ持っています。どちらかというと、小さいものを

見る人は小さいものだけを見るし、遠くを見る人は遠くだけを見るのですが、あなたは3つ持っています。

実は、景観では遠景、中景、近景といいます。その3つの写真を見せられてとても良かったです。



これは好きな景観で、題は「自然あふれる黒岩」です。いろいろな色が混ざっていてきれいだし、自然な感じがあふれていたのが好きな景観にしました。



これはきれいな景観で、題は「秋が来た！」です。葉っぱの色が真っ黄色できれいだし、気にいったのできれいな景観にしました。下の方の緑色のところも黄色になればもっときれいになると思いました。



これは好きな景観で、題は「ねこの大冒険！」です。私はねこが好きだし、横の木がちょうどきれいに写ったので、好きな景観にしました。気の葉っぱがもうちょっとあるともっといい写真が撮れると思いました。

（北原先生からのコメント）

あなたの写真は3枚ともそうなんですが、今まで見た中で最も色、色彩の感覚がすごく溢れていると思います。

1枚目は、いろんな色が混じっています。いろんな色が混じりながら、邪魔をしているのではなく、自然の景色として溶け込んでいます。

「いろんな色が入っているから私は好き」と言えることはとってもいいと思います。これを見て、いろんな色と言えるということは、いい環境で育っていると思います。

もし、東京のビルに住んでいる人がいたら、緑があって、田の色があって、と言うかもしれません。同じ緑でもいろんな緑があるし、いろんな色があっていいなあというのは豊かです。

2枚目の「秋が来た！」、彼女は今まで見た中で色というものを意識していると思います。

3枚目も、猫が主人公ですが、その割には真ん中の木の葉っぱと青い石油タンクが妙に気になります。色というものを見る目が彼女にはあって、僕は感心しています。

■

これは不思議な景観です。題は「黄泉の国からやってきた!!」。道の隣にあったので、よく見ると顔みたいないろいろなものに見えてきて、怪物みたいに見えたのでこういう題にしました。こ

れはそのままにしておいてほしいです。



これはおもしろい景観です。題は「空っぽ」です。くるみが割れて半分になって、道端にころがっているところがなぜかおもしろかったので撮りました。これはそのままにしておいたほうがいいと思いました。



これはきれいな景観です。題は「はきけがする」です。くもの巣と得体の知れないものがびっしり付いていて、食欲が失せそうなくらい気持ち悪い景観です。これは、掃除をしてきれいにすればいいと思いました。



（北原先生からのコメント）

1枚目の写真は、「黄泉の国からやってきた！！」というタイトルが気に入りました。

実は僕が、3枚の写真をどのように見ていたかというと、みんなのなかであなたが一番、物に近いところで撮っています。一番、背が高くて目の位置が高いあなたが、写真を撮るときに、すごく近くでミクロの写真を撮っています。

1枚目の写真も他のものが入らない近い距離で撮ったからこそ、怪物のように見えます。わたしは感心して見ていました。2枚目のくるみの写真もあの角度、あの距離で見るから、何とも言えない「空っぽ」というタイトルになるのであって、もう少し引いた所から撮ると、何か落ちているくらいにしかありません。

この距離感でものを見る目は、景観を見るときにとっても大事だと思います。

■



これは、気になる景観で、題は「サクラの木」です。いつもブランコから見ているサクラの木がいつ咲くか楽しみだから気になる景観にしました。サクラが咲いているときにもう一回撮って比べてみたいです。



これは好きな景観で、題は「きれいな太陽」です。太陽がキラッと光っているところが好きだし、ちょうど木の間から出てきれいだからです。



これはきれいな景観で、題は「ひこうきぐも」です。真っ青な空に、飛行機雲と飛行機がきれいに撮れていたから、きれいな景観にしました。

（北原先生からのコメント）

空を撮った写真は他に何枚かあったのですが、この写真が最もきれいに飛行機をとらえていました。青空だからこそ、こういう写真が撮れたのだと思います。

私が一番、気にしているのが1枚目の写真です。このサクラの木は今は何も咲いていないのですが、これが咲くときれいなことは知っています。咲いていたら、きれいな景観に入れたいと思うのですが、今はその咲く頃を気にして「気になる景観」にしています。

日本は、皆さん知っているとおり、季節があります。同じ所でも、春夏秋冬で見える景色は全部違います。これは日本のとてもいいところです。

今は、このサクラの木に何も見えなくても、咲いてくれる季節を感じさせてくれるタイトルでした。

青森で2月に景観教室をやったとき、先生に「もう冬だから雪しか撮ってもらえない」と言われましたが、「いいから撮ってきてもらって」と言ったところ、ある女の子が公園を撮ってきました。公園は雪で埋もれています。すべり台が雪で埋もれている写真だったのですが、そのタイトルが「春はもうすぐ」でした。

今は使えないけれど、毎日、学校の帰りにすべり台の上を見ていると、雪がだんだん減ってきています。もうすぐこの公園で遊べるなと思って、

このタイトルをつけ、好きな景観にしていました。4月になったら遊べると思って、待ちきれなくて写真を撮ってきたのです。

このサクラの木の写真も、今は殺風景だけれど、ここからまた生まれてくるんだなあという思いで写真を撮っています。そういう気持ちはとても大事だと思います。

■



これはおもしろい景観で、題は「中身が空のかき」です。最初は表の方を見て、おいしそうなかきだなって思ったけど、裏を見たら、中が空でおもしろかったです。



これは気になる景観で、題は「木にかかったワイヤー」です。どうしてこんなところにワイヤーなんかがあるのだろうと気になったので撮ってみました。

これは好きな景観で、題は「不思議なねこ」です。私はねこが好きなので、どんな行動をとるのかなと思って撮ってみました。特におもしろい行動はとりませんでした。今日はスタスタと歩いていましたが、今度は横になって日向ぼっこしてい

たらいいです。



(北原先生からのコメント)

さっきの猫の写真は、真ん中にピントがあっているのに、真ん中の木の色、石油タンクの青が気になったのですが、彼女の写真は、かき、ワイヤーにしても、とても気になるものをパッと気がついたときに撮っています。猫の写真も、猫が写真のちょうど真ん中にきています。

そういうことがとても大事で、「おもしろいなあ、なんだろうなあ」という気持ちをストレートに、ピントを合わせて撮っています。素直な写真です。気づいたことを真ん中でしっかり撮ろうという気持ちです。先ほどのクルミの写真も、撮りたいものに気付いて、一生懸命調べたいという気持ちが写真の撮り方に表れていて、とてもいいなあと思いました。

3. みんなの発表を聞いて

北原 啓司 氏

(弘前大学教育学部教授)

みんなの写真を見た上で、僕が考えたこと、皆の言葉を聞いていいなと思ったことをお話したいと思います。

そもそも、この授業はなぜこんなことをやるかですが、景観というのはみんなも知っているとおろ、景色のことを指します。

しかし、景色のことを指すのは「景」という漢字だけです。「観」という漢字は見ることを指しますが、観るというのは「見る」とは違います。ただ見ることだけだったら、パッと見てそれを伝えればいいのですが、「観」はその後があります。

- ・見て、ちょっと考えてみる
- ・見て、ふしぎだなあと思う
- ・見て、好きだなあと思う
- ・見て、ちょっといやだなあと思う
- ・見て、もっと見たくなる

今回は、見て、かわいそうだなあと思うとか、見て、直したいと思うとかいろいろありました。

その言葉を見て、僕はよく見てくれたなあと思いました。つまり、見て、の後が大事なのです。そして、皆いいタイトルを付けてくれたなと思いました。

好きとか嫌いだけではなくて、直したいとかかわいそうとか、みんな独特のその言葉が、みんな、こうやって見てくれた証拠だと思います。

みんなの景観シートを見ました。600枚近くを一生懸命見て、夜中に作業をしました。皆のタイトルの付け方がおもしろかったです。

○好きな(よい)景観

- ・かくれている金魚
- ・きれいなもみじ
- ・勇ましい石像
- ・木のかがやき
- ・かがやいている水
- ・木とかれ葉
- ・ねこの大冒険!
- ・スッキリ
- ・きれいな水

- ・兄弟
- ・道のおくに寺
- ・竹
- ・いっせ
- ・昔の風景
- ・とりの応援団
- ・真っ白い我が母校(大好き)
- ・不思議なねこ

僕がとっても好きなのは、皆、「〇〇の△△」というかたちでネーミングを付けてくれています。「かがやいている水」というだけで太陽が当たっています。言葉だけでも、目をつぶった時に、そういう姿が浮かび上がってくるようなその言葉こそが、景観学習をしたみんなだからこそその言葉だと思いました。「かがやいている水」って、どんな感じかなあ、田んぼの水なのかな、川の水なのかな、それが輝いているのかなと、言葉だけでも景観が見えてきます。景色を言葉で表現するのが、皆はとても力があると思いました。

○気になる景観

気になる景観は、好きな景観より多かったです。

- ・さびている小屋
- ・なんかこわい…二宮金次郎
- ・ふしぎな石?
- ・ふしぎなゴミ箱?
- ・ふしぎな写真
- ・木のサスマタ
- ・なぞの機械
- ・なぞのスター
- ・秋の印

「秋の印」は気になる景観だけれど、とてもいいネーミングで、言葉としてはいいと思います。

- ・持ち主募集中
- ・サクラの木
- ・ウォーリーを探せ(超気になる)
- ・ザ・ウォーリー・グレート・スペシャル
- ・草に囲まれた機械
- ・くねくねの木
- ・とりのむれ
- ・う〇ちな木

この木の写真はいっぱいありましたが、たしかにそんな風にも見えます。

- ・白い丸体

- ・木にかかったワイヤー
- ・上下がわからない飛行機雲

○きれいな景観

嫌いな景観は意外とそんなになかったです。

- ・いろんな木…ポスター？
- ・はきけがする（超きれい）

はきけがするというのは、たぶん、最悪の景観で、僕も今度使いたいと思います。

- ・ぶきみな蔵
- ・くどいかんばん

○かわいそうな景観

かわいそうな景観、この言葉だけで、なんとなく何が出てくるかわかって、好きです。

- ・蔵

○こわい景観

こわい景観というものが出てくると思わなくて、意外でした。嫌いな景観じゃなくて、こわい、です。

- ・古びたかんばん
- ・こわすぎるかんばん
- ・小さなほら穴

○悪い・直したい景観

- ・直したいでんしんばしら
- ・空の風景
- ・記念写真

○見られたくない景観

僕はこういうネーミングをぜひ、大人にも聞かせたいと思います。

- ・見ないで

○かわいい景観

- ・ヒカル黄色い実
- ・のぞき見ワンチャン（めっちゃカワな）

○不思議な景観

- ・寒そうなキウイ
- ・黄泉の国からやってきた！！

○もりだくさんな景観

- ・たくさん収穫

もりだくさんな景観というのも初めて聞きました。こういうまちだからこそ、秋の収穫物がああやっていっぱい並んでいるからこそ、みんなが盛りだくさんな景観と思ったので、それはとても豊かな証拠です。

○冬になったなあと思う景観

- ・金魚の冬眠

さっきの金魚と同じなのですが、タイトルがとてもおもしろいです。

- ・おもしろい景観
- ・空っぽ（超おもしろい）
- ・水の通路
- ・中身が空のかき

○びっくりした景観

- ・UFO！！

○きれいな景観

- ・秋がきた！
- ・かわいい実の兄弟たち
- ・空色の水たまり

きれいな景観のタイトルが、すごく詩を感じました。空色の水たまりというのも意味があつて、あの日、すごくいい天気でした。それが地面の水たまりに映っているわけです。それを、空色の水たまりと表現するのは、なかなかないと思います。

さっき、景観というのは、見て、〇〇する、と言いましたが、みなさんの言葉がいっぱい出てきたので嬉しかったです。今度、他の学校で景観教室をするときには、かわいそう、こわい…みんなが出してくれた言葉を使いたいと思います。こんな風にたくさんの方の言葉を出してくれた小学校は初めてです。

実は他の学校では、好きな景観。嫌いな景観、気になる景観で、シートを書いてもらっていますが、その3つしか書いてきません。みんなはその景観の名前も考えてくれました。だから、みなさんの景観だということがすごくわかりやすく、嬉しくなりました。

皆さんの写真で、お寺の写真が何枚かあったので、お寺の方に向かって歩いて行っているように

並べてみました。

景観というのは、ある所で止まってみるのではなく、まちなみは歩いてみます。ですから、歩くスピードで、だんだん前の景色が見えてきます。車だったらきっと見落としてしまいますが、歩きの景観、自転車で見える景観は、つながりとしての景観です。

学校の写真は、みんなの好きな写真にいっぱい選ばれていました。僕も初めて来たとき、木がいっぱい使われていていい学校だなと思いました。自分の学校を好きな景観に選べる学校はとていいと思います。

何年か前に、建築学会であるまちの小学校の校歌を全部集めて研究した人がいました。景観の研究です。校歌というのはその地域のとても大事な景観を、昔、そこに住んでいた人や出身の人が思い出しながら書きますから、昔のとてもいい景観が書かれます。

みなさんの黒岩小学校の校歌を改めて見たときに、この地域のみなさんが見つけてきたような景観が入っているだろうか、あるいはどのような意味でこの校歌ができたか、校歌を見ると地域がわかります。

<黒岩小学校 校歌>

遠山に 雪は残れど
陽炎は 大地に燃えて
やわらかに 芽をふく梢
香ぐわしき 沃土に立てば
祖たちの沁みし 汗の香
この土 われら ああ
黒岩の 若芽と伸びん

みんなは普通に歌っているかもしれませんが、校歌を歌っているときに、その景色を想像しながら歌ってみてください。

遠い山にちょっと雪は残っていて、陽があたって陽炎が出ています。梢からは芽が出てきます。それはとても肥えた地面から、においが出てくるような風景。そして、先祖が一生懸命頑張った汗のかおり。田や畑を耕して、豊かな自然の中でのをつくってきた。

今日も収獲の写真があり、いっぱいものが出てきましたが、あれもこういうことの中から出てき

ている景観です。

校歌というのはこの地域の何を大事にしているかわかります。ある大学の先生が三重県の学校の校歌を全部集めて、山、川、何が入っているか研究した人がいました。

こうやって、黒岩小学校の校歌を見ると、やはり、校歌はその地域の景観が表現されているんだなと思います。

今度、皆さんが歌う時は、ただただ、字を暗記して歌うのではなくて、目をつぶって、今言っていることがイメージのなかで浮かんでくるとももっとも楽しくなります。将来、高校、大学、社会人になって黒岩を出ていったとき、この歌の景色が自分の景観として残っていればきっと、自分のとてもいい懐かしい景観として思い出されると思います。みんなの撮ってくれた写真をスライドショーにして、バックに校歌を流すときといいものになると思います。

みんなが撮ってきてくれたものはおもしろかったです。そして、景観は写真だけではありません。作文で書いたり、絵にかいたり、言葉で表したり。俳句もそうです。俳句は五七五で17文字で最高の景観を表しています。

今、弘前ではあなたの大好きな景観を選んで応募してもらいました。写真ではなく、俳句を出してきた人がいました。写真よりも言いたいことがあるんです。皆さんも、言葉、キャッチフレーズがありました。ああいう言葉も景観を大事にしていくときに必要です。そういう言葉を考えられた自分たちを褒めてほしいし、そういう気持ちをこれからも持ってほしいと思います。

先生自身がみんなとの景観教室がとてもおもしろかったですし、みんなの撮ってきた写真はこの学校の宝物です。それと同じくらい、校歌もきっとみんなの景観の一部になっていると思います。

景色を見るだけではなくて、見て感じて活動してもらうととても嬉しいです。ありがとうございました。